

# 研究だより

入新井第五小学校  
研究推進委員会  
R6年1月25日(木)  
第7号

## 社会に適応プロジェクト

### 5年 道徳「土石流の中で救われた命」～子ども防災訓練を経験して～

#### ◎授業について

5年1組では、本校の研究テーマである「生きる力の育成」における2本目の柱となる「道徳」の研究授業が行われました。心の教育の必要性が重要視され、2018年から道徳の学習は教科化されています。今回は「感謝」という価値について考えるために、「土石流の中で救われた命」という教材を使った授業を行いました。これは今から30年前、鹿児島にある竜ヶ水駅付近で実際に起きた土石流と、それに巻き込まれた人々による避難の様子を書いた実話です。子どもたちは、命がけで避難する際の、人々の心情の変化について考えていきました。



学習指導要領では、高学年における「感謝」に対する目標は、「日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。」とされています。指導の要点として、過去から人々が何を願い、何を伝えてきたのか、それは自分の生活とどう関わり、支えられているのかに気付くことができるようにすることが大切であり、多くの支えによって今の自分が在り、社会生活を送っていることに改めて目を向けることが、感謝の念を抱くための第一歩であると示されています。また、温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践できるようにするところまで指導する必要があることも示されています。5年生はこの授業の1週間前に、総合の学習で計画してきた「子ども防災訓練」を実施しています。地域に住む人々に対して、いざという時に何ができるのかを考える中で、自分達で防災訓練を主催し、保護者や地域の方に参加してもらいました。今回の道徳の教材も、目の前で土砂崩れが起きる中で、無事に生き延びることができるのかと不安で仕方ない時の気持ちや、みんなで助け合って生き延びたいと願う思いについて考えながら、授業が進んでいきます。助けてもらった際に感じる「感謝」の気持ちから人々が助け合う様子について焦点を絞っていき、最後は生き延びることができたことへの主人公の気持ちについて考えながら、感謝の先にある「思い」にまで考えを深めていきました。被災地で過ごす人々の思いや、助け合い支え合う体験をする中で経験した学びについて、今回の道徳では深めることができました。

高学年の道徳の授業は、毎回とても深いことを子どもたちに考えさせています。今回も、先生から出される1つ1つの発問に対して、真剣に考え応えようとする5年生の姿がとても素晴らしかったと、見に来た先生方から褒めていただきました。前回の防災訓練の成功も含めて最高学年になるのが楽しみだと、5年生のさらなる成長に期待を込めて、校長先生からも喜びの言葉をいただきました。

これからも道徳の時間を通して、子どもたちの「生きる力」を育む心の教育を大切にしていきたいと思います。

#### ◎協議会記録

○指導案が素晴らしい。内面的資質の向上ということをよく理解している。

○授業を受ける姿勢、教師の話聞いて考えている時のまなざし。道徳の授業を通して教師と児童が創りあげる学級の雰囲気「畏敬の念」に似た感覚を感じた。それくらい学び考える雰囲気がよかった。



△ワークシートで書かせた内容が難しい。価値がぶれてしまったのではないかな。道徳の授業では、「内面的資質の向上」を意図とするので、「これから」という未来への意識表明のようなことは聞かない。

